中部運輸局からの委託調査ほか３調査

岐阜市周辺のバスおよび路面電車の利用向上に向けた基礎調査

実施主体
岐阜未来研究団、（財）地域総合研究所、中部運輸局

実施期間
2004 年 8 月～2006 年 3 月

本人の役割
企画立案、アンケート表の作成、配布、集計、分析

スタッフ
研究員３名★、配布担当者のべ１１名、集計担当者のべ１３名

岐阜市民の交通手段別の買い物行動について。

～暮らしと公共交通アンケート調査より

もともと岐阜未来研究団として自主的に行って来た、市内各地区の住民に対する公共交通利用の実態調査を、中部運輸局消費者行政課からの委託形式で、その最終編および集大成として、取りまとめたものである。最終編では新規にバス沿線３地区の調査を行い、これまでの同趣旨調査と合わせて、計７地区１０００名余りの回答を得た。

ここで明らかになった数ある事柄のうち、最も地元の商業者に示唆と希望をもたらしたのは、「公共交通利用者は中心市街地でプレゼント品や装身具など、大切なものの買い物行動を取っている」ということであった。

クルマ社会化が未だ進展している郊外型社会である岐阜市に於いては、「魅力あるサービスを提供する店舗」は何も中心市街地だけに進出はしない。一方で公共交通利用者は中心市街地に滞在する時間が長く結果的に魅力あるサービスを提供する店舗を見つける力を持つ。

したがって、中心市街地の求心力を高める意味でも、公共交通利用の促進を図る意味でも、中心市街地と公共交通のコンビネーションこそが互いの持続可能性を高める、という結論を得た。